

市の沿革・位置・地勢

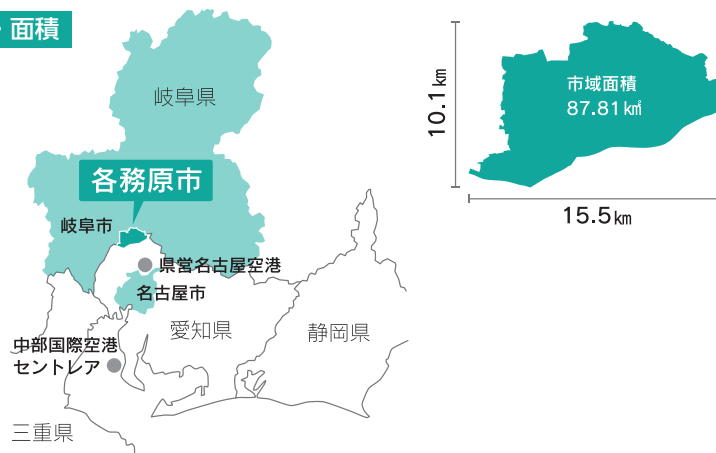
各務原市は、昭和 38 年に那加町・稲羽町・鵜沼町・蘇原町の合併により誕生しました。平成 16 年には川島町と合併し、現在の市域となりました。岐阜県の南部、濃尾平野の北部に位置し、南には木曾川が県境となって流れ、北部と東部は標高 200 ～ 300 m の山が連なっています。岐阜市や関市、愛知県一宮市、江南市、犬山市などと隣り合っており、岐阜市へ 8km、名古屋市へ 30 km 圏内の位置にあります。

地勢は、標高 30 ～ 60 m の各務原台地、12 ～ 20 m の台地周辺平野、200 ～ 300 m の北部・東部丘陵地からなり、地質は台地が洪積層の黒ぼく土壌、その周辺部は木曾川・長良川により堆積した沖積層、丘陵地は秩父古生層の砂岩、チャートなどの層で構成されています。

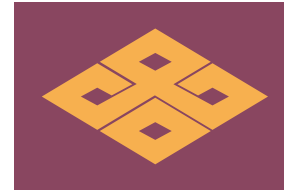
東西に長い市域を持つ各務原市は、東西に走る国道 21 号、南北に走る主要地方道・江南関線などで岐阜市や愛知県に連絡しています。

市の中央には JR 高山本線と名古屋鉄道各務原線が東西に走り、また、市の西端に、愛知県一宮市～富山県砺波市を結ぶ「東海北陸自動車道」の「岐阜各務原インターチェンジ」があるなど、利便性の高い交通網が形成されています。

位置・面積



市章・市の木・花・市民の花木



昭和 38 年 4 月 1 日、各務原市発足の日に市章が決まりました。4 つのひし形は、各務原市のもとになった「那加町」、「稲羽町」、「鵜沼町」、「蘇原町」の 4 つの町をあらわし、漢字の「各」の字を図案化したものです。

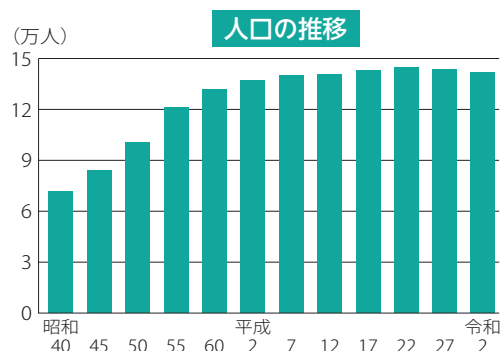
昭和 48 年に市制施行 10 周年を記念し、郷土を緑と花でつまれた美しい街にしようと、市の木に「まつ」、市の花に、「つつじ」が選定されました。

また、各務原市には、新境川沿いの百十郎桜をはじめ、数々の桜の名所があることから、平成 22 年に、「さくら」を市民の花木に決めました。



市の人口

市が誕生した昭和 38 年時点の市の人口は約 59,000 人。その後、昭和 40～50 年代に行われた住宅団地の造成などにより、昭和 60 年代にかけて急激に人口が増加しました。平成に入るとその伸び率は緩やかになり平成 22 年まで増加を続けましたが、平成 27 年に初めて減少に転じました。



人口

14万5630人 (男7万2001人 | 女7万3629人) 6万1165世帯
(令和4年4月1日現在、住民基本台帳)



市の統計の詳細は市公式ウェブサイト
(上記二次元バーコード) をご覧ください

ずっと、このまちで

市では、平成 27 年度から、まちづくりの羅針盤となる「各務原市総合計画」にしたがって、「誇り」、「やさしさ」、「活力」の基本理念のもと、



「しあわせを実感できるまち」の実現を目指して、さまざまな取組を展開しています。

人口減少時代に対応するためには、10 年先、20 年先の未来を見据え、教育や子育て、防災や産業・雇用などあらゆる分野で「一手先を行くまちづくり」が必要です。各務原市の「ひと」、「くらし」、「まち」をともにつくり育むために、市民や自治会、NPO、企業、行政などが一丸となり、皆さんに「ずっと、このまちで」と思ってもらえるよう「オール各務原」で取り組んでいきます。

SDGs の達成に向けた取組

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



市では、「総合計画（後期基本計画）」や「総合戦略」の中で、SDGs を取組の前提事項に位置付けています。

これまで、SDGs の達成につながる取組をさまざまな形でしてきました。引き続き、市民の皆さんや企業・各種団体との連携（パートナーシップ）を大切にしながら、取り組んでいきます。

次ページ以降の主要施策では、関連するゴールを紹介しています。

[注] SDGs … Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）の略称で、平成 28（2016）年から令和 12（2030）年までの国際社会共通の目標。持続可能な世界を実現するための 17 のゴール（目標）と 169 のターゲットから構成され、すべての国において「誰一人取り残さない」社会の実現を目指す、広範で統合的な取り組み。